

鉄道沿線物語

鉄道の発達と吹田



西京神戸之間鉄道開業式諸民拜見之図(神戸市立博物館所蔵)



吹田市立博物館
 大阪府吹田市岸部北4丁目10番1号
 電話 06(338)5500

(交通案内)

- 阪急千里線吹田駅から
 桃山台駅前・山田橋切山ゆきバス、佐井寺北下車徒歩10分
 阪急山田千重中央・摂津ふれあいの里ゆきバス、岸部下車
 徒歩10分
- 阪急千里線南千里駅から
 Jリ吹田ゆきバス、3系統、佐井寺北下車徒歩10分
- JR東海道本線岸辺駅下車徒歩20分

平成8年
10月26日(土)～11月24日(日)

開館時間 ● 午前9時30分～午後5時
 休館日 ● 月曜日(ただし11月4日休は開館し、翌11月5日火を休館)
 観覧料 ● 大人500円(400円) / 高大生250円(200円)
 小中生100円(80円) * ()は20名以上の団体割引

(講演会)
 11月10日(日)午後2時～3時30分
**「吹田の交通動脈
 阪急千里線の誕生と役割」**
 関西大学教授 末尾 至行氏

11月17日(日)午後2時～3時30分
「汽車の窓から見た近代日本」
 追手門学院大学教授 宇田 正氏

※会場は当館講座室 先着120名 聴講無料



吹田市鳥瞰絵八ガキ(個人蔵)

鉄道沿線物語

鉄道の発達と吹田

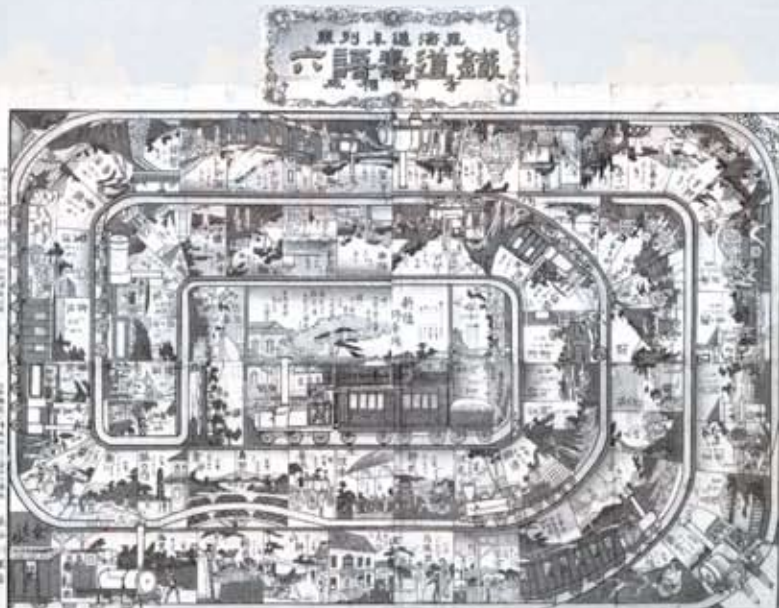
文明開化の象徴として蒸気機関車や鉄道が語られることは少なくありません。明治5年(1872)9月に新橋-横浜間の鉄道が開通して以来、多くの物や人を運び続けた鉄道は、日本の近代化、ことに殖産興業を実現するためには必要不可欠なものでした。

関西では明治7年に大阪-神戸間が仮開業し、明治9年に向日町-大阪間を仮開業、翌明治10年2月には明治天皇臨席の下、京都-神戸間鉄道開業式が盛大に挙行されました。吹田停車場は仮開業後もまもなく山崎・茨木とともに開業し、中間駅は当初からの高規を加えた4駅となりました。

吹田操車場は大正12年(1923)に誕生しました。第一次世界大戦以後、近代産業の著しい発展にともなって鉄道の旅客・物資の輸送量は増大の一途をたどり、必然的に輸送施設の拡充改善が急務となり吹田操車場が設置され、従来大阪駅に集散していた混合貨物の整理が大いに改善されました。

また、大正期の北大阪電気鉄道の開通やそれともなう千里山住宅の開発などは、吹田の市街地形成に大きな影響を与え、のちに大阪のベッドタウンとして発達していく基礎を作ったといえます。

本展覧会では鉄道縮絵や鉄道沿線図などの絵画資料も交えて、近代日本における鉄道の発達をみると同時に、吹田における鉄道敷設と市街地化などにスポットを照らした吹田の鉄道史をご覧いただきたいと思ひます。



東海道上り列車 鉄道寿語六(神戸市立博物館所蔵)



蒸気車出発時刻資金附(神奈川県立歴史博物館所蔵)



自動連結器導入ポスター (個人蔵)



吹田操車場写真 昭和36年頃(交通科学博物館所蔵)



近畿を中心とする名勝交通鳥瞰図(京都府立総合資料館所蔵)